

住民が安心して住み続けられるための地域医療を！

地域医療を守る共同行動 みやぎ連絡会 News

2023.1.20.FRI No.119

発行／地域医療を守る共同行動みやぎ連絡会事務局
〒983-0047 仙台市宮城野区銀杏町39-18（民医労内）
TEL 022-782-0633／FAX 022-782-0634

地域医療を守る共同行動みやぎ連絡会
“移転ありきでなく県民との話し合いで地域医療充実を！”

東北労災病院・県立精神医療センター・仙台赤十字病院・県立がんセンター

4病院再編統合・移転反対！

累計 **48,980**筆を県に提出！

第一次提出分（2022年4月20日） 28,907筆

第二次提出分（2022年8月10日） 5,256筆

最終提出分（2023年1月13日） 14,817筆



1/13（金）地域医療を守る共同行動みやぎ連絡会では、4病院再編統合・移転反対署名累計48,980筆（今回提出分14,817筆）を宮城県へ提出。共同行動連絡会6名が参加。県保健福祉部長他対応しました。

岩倉政城共同代表は「県民に内容を説明し、対話をしながら署名を集めてきた。私たちの後ろには5万人がいて、しっかり県民の意見を聞いてほしい」と述べ署名の意味を重く受け止めることを強調し訴えました。

（写真左上／兼保険部長に署名を手渡す岩倉代表）



東北労災病院を守る会主催の昼デモ

署名提出当日、東北労災病院を守る会が呼びかけた昼デモが行われ約70名が参加。市内中心部で「4病院再編反対！」の声が響き渡りました。

東北労災病院を守る会 第二回総会

2023年1月21日（土）14:30-16:30

仙台市福祉プラザふれあいホール

記念講演「地域医療と4病院問題を考える」

講師 本田宏先生（医師）



4病院の統合・合築に関する県民の皆様からの御意見等について

(宮城県HPより)

<2021年（令和3年）>

○9月14日

宮城県医療労働組合連合会

- ・「4病院の統合・合築に抗議」

○9月14日

仙台市医師会

- ・「病院移転が地域住民に与える影響はあまりに大きいこと」
- ・「4病院の統合・合築に対して反対」

○10月6日

日本労働組合総連合会宮城県連合会（連合宮城）

全日本自治団体労働組合宮城県本部（自治労宮城県本部）

県立病院機構労働組合

- ・「患者・地域住民・労働組合の声を無視した4病院の統合・合築の協議開始を撤回すること」
- ・「4病院の統合・合築や地域医療のあり方について、地域医療構想会議等で十分な議論を尽くすこと」
- ・「現存する病院の立地自治体の意見を聞くこと」

○10月7日

宮城県保険医協会

- ・「県立がんセンター、仙台赤十字病院、東北労災病院の統合・移転構想は撤回すること」

○11月19日

公明党宮城県議団

- ・「立地自治体や地域住民の意見を十分に聞きながら慎重に検討を進めること」

○11月30日

宮城県法人会連合会

- ・「4病院統合に向けた整備については、関係する自治体、病院(従事者含む)と情報交換しながら協議を進めること」

○12月21日

八木山連合町内会

西多賀地区町内会連合会

八木山南連合町内会

八木山南社会福祉協議会

緑ヶ丘地区連合町内会

向山地区連合町内会

- ・4病院の統合・合築に反対（反対署名を受領）

○12月22日

宮城県労働組合総連合

- ・「住民、患者、職員の声に耳を傾け「4病院再編」を撤回すること」

○12月22日

全日本自治団体労働組合宮城県本部（自治労宮城県本部）

- ・「議論経過など明確な情報開示がなく、住民との十分な協議・説明がないまま進んでいることに大きな危惧を抱いている」

○12月24日

宮城県町村議会議長会

（宮城黒川地方町村議会議長会からの要望）

- ・「富谷市に新たな病院が整備されることで仙台医療圏全体の健康保持・保健医療体制の充実が図られるとともに、多様な波及効果が期待されるので関係者との基本合意に向けて協議を進めること」

<2022年（令和4年）>

○1月11日

自由民主党県民会議

- ・「4病院における統合等は住民に直結する問題であることから、関係市町村や病院関係者を含めた丁寧な協議と、県民に対して積極的な情報開示と丁寧な説明を実施すること」

○1月20日

みやぎ県民の声

共産党宮城県議団

社民フォーラム県議団

無所属の会

- ・「4病院の統合・合築については宮城県全体の問題と捉え、できる限りの情報公開と立地自治体・患者・協力医療機関・地域住民の意見を踏まえて進めること」
- ・「県内の医療提供体制の充足状況の分析と合わせて、人口減少と高齢化が進む局面における宮城県の地域医療の方向性についても同時並行で議論を進めること」

○3月25日

太白地区町内会連合会

- ・4病院の統合・合築に反対（反対署名を受領）

○4月20日

地域医療を守る共同行動みやぎ連絡会

- ・「4病院の再編・統合・移転を行わないこと。」
 - ・「検討経過を明らかにすること。」
- （反対署名を受領）

○6月9日

東北労災病院を守る会

- ・「県内全ての地域における医療を拡充し、地域の要望に沿った医療構想の実現を求める」（声明文を受領）

○6月10日

宮城県母親大会実行委員会

- ・「4病院の再編・統合・移転を行わないこと」

○6月20日

全日本自治団体労働組合宮城県本部（自治労宮城県本部）

- ・「これまでの議論経過及び今後の協議経過を全て開示すること」

○8月10日

地域医療を守る共同行動みやぎ連絡会

- ・反対署名（追加提出分）を受領

○8月29日

みやぎアピール大行動実行委員会

- ・「4病院統合ではなく、現地で存続させること」

○9月15日

全日本自治団体労働組合宮城県本部（自治労宮城県本部）

宮城県立病院機構労働組合

- ・「がんセンターを移転せずに、現在のがん診療機能を維持すること」
- ・「患者が継続して医療を受けられる体制を維持すること」
- ・「利用者の声や地域住民の声を考慮すること」

○10月28日

宮城県精神神経科診療所協会

- ・宮城県立精神医療センターが担ってきた役割や機能,移転後の県内の精神科救急などについて質問があった

○11月16日

宮城県歯科医師会

- ・「2040年問題も踏まえて、新時代の病院歯科のあるべき姿を歯科医師会、病院歯科の歯科医師、東北大病院の歯科部門とともにしっかりと議論し、タックスペイヤー、有病者にとって最大の利益をはかれること」

○11月24日

宮城県精神病院協会

- ・「県立精神医療センターの富谷移転は再考すべき」
- ・「目先のコスト削減にとらわれず、精神科医療の長期的な将来構想を見据えた計画を立てるべき」

○11月25日

宮城県法人連合会

- ・「4病院統合に向けた整備については、関係する自治体、病院(従事者含む)と情報交換しながら協議を進めること」
- ・「第三者会議を立上げるなど意見を広く吸い上げながら進めること」

(注 / 報道記事転載の為、組織内資料扱)

宮城県の4病院再編構想 7団体が反対の署名約4万9000人分を提出

<https://youtu.be/c-BCF2tbc4w>

2023年1月13日 khb東日本放送



宮城県の7つの団体が、県が進める仙台医療圏の4病院再編構想に反対する約4万9000人分の署名を県に提出しました。

13日午前9時ごろ、医療従事者や労働組合などで作る宮城県の7つの団体が県庁を訪れ、仙台医療圏にある4つの病院の統合や移転集約に反対する4万8980人分の署名と撤回を求める声明を提出しました。

地域医療を守る共同行動みやぎ連絡会岩倉政城共同代表「なぜ県民の声を聞かずに自分たちだけの意見で、この統廃合を進めている背景をえぐり出していく必要がある」

県の担当者は「4つの病院の再編は、地域医療を維持するために必要な検討」と回答しました。県は、年度内に再編構想の方向性を示す考えです。

4病院再編問題で約5万人反対署名を県に提出 医療従事者団体など 計画撤回と情報開示を・宮城

<https://www.mmt-tv.co.jp/nnn/news105ubdzj8tnxtfwf60w.html>

2023年1月13日 ミヤギテレビ



仙台医療圏の4病院を再編する県の方針について、医療従事者の代表などが約5万人分の反対署名を県に提出した。

提出したのは県内の医療従事者などからなる団体で4病院再編に反対する約4万9千人分の署名を県に提出した。県が進める4病院再編は県立精神医療センターと東北労災病院を富谷市に併設し、県立がんセンターと仙台赤十字病院を名取市に統合するというもの。

団体は計画の撤回と情報開示を行い県民

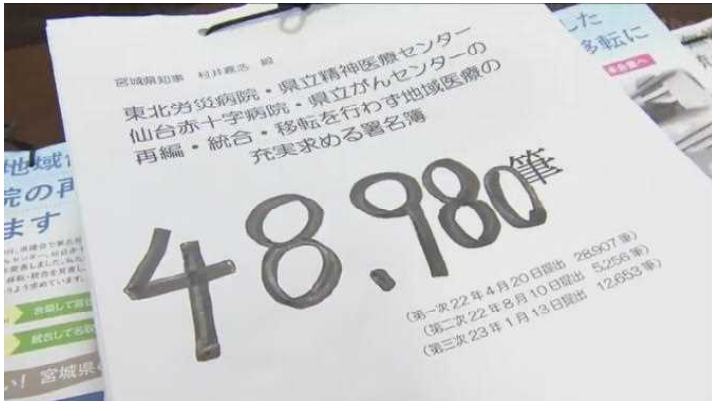
の意見を県政に反映することを求めた。

4病院の再編では去年4月と8月にも同様に計画に反対する署名が県に提出されている。

仙台医療圏4病院再編“撤回求め”宮城県に5万人分の署名 「密室の協議で強引に進めようとしている」

<https://newsdiq.tbs.co.jp/articles/tbc/273565?display=1>

2023年1月13日 tbc東北放送



仙台医療圏の4つの病院を2つの拠点に再編・移転する宮城県の構想について、市民団体が13日、県におよそ▼5万人分の構想撤回を求める署名を提出しました。

仙台医療圏4病院再編“撤回求め”宮城県に5万人分の署名「密室の協議で強引に進めようとしている」

地域医療を守る共同行動みやぎ連絡会など7つの市民団体の代表らが県庁を訪れました。そして去年8月以降に街頭での署名活動などで集めた、構想撤回を求める▼4万8900人分の署名を県の伊藤哲也保健福祉部長に、提出しました。

地域医療を守る共同行動みやぎ連絡会・岩倉政城共同代表:

「ここに集まっているのはせいぜい10数人だが、その後ろになんと5万人の人たちが座っているということだと理解してもらいたい」

県の構想は、仙台赤十字病院と県立がんセンターを統合して名取市に。東北労災病院と県立精神医療センターを併設して富谷市に移転するというものです。

市民団体は「圧倒的な世論を無視し、密室の協議で強引に進めようとしている」と反発しています。このあと、市民団体は仙台市中心部をデモ行進し、県の構想が撤回されなければ地域医療が失われると街行く人に訴えました。

県はこの構想について、今年度中の基本合意を目指しています。

“県の4病院再編計画に反対” 約4万8900人分の署名提出

<https://www3.nhk.or.jp/tohoku-news/20230113/600022131.html>

2023年1月13日 NHK仙台放送



宮城県が進める4つの病院の再編をめぐり、反対するおよそ4万8900人分の署名を医療関係者で作る団体などが県に提出しました。

宮城県は「県立がんセンター」と「仙台赤十字病院」を統合して名取市に設置し、「県立精神医療センター」と「東北労災病院」は経営主体を残したまま富谷市に設置する計画を示し、今年度内の基本合意をめざして、村井知事は今月、合意に向け

ては「5合目から6合目」という認識を示しています。

こうしたなか、医療関係者で作る団体などが県庁を訪れ、県内で集めた病院の再編に反対する4万8980人分の署名を担当者に手渡しました。

署名を提出した団体の岩倉政城共同代表は「県民に内容を説明し、対話をしながら署名を集めてきた。私たちの後ろには5万人がいて、しっかり県民の意見を聞いてほしい」と訴えました。

これに対して、県の担当者は「病院の再編は、地域医療を守り、充実させるためだ。署名は重く受け止め、しっかり中身を拝見したい」と応じました。

署名を提出した団体は、今後も、県の対応を注視しながら再編の撤回を求めていくことにしています。

仙台医療圏4病院再編で宮城県に5万人の反対署名 村井知事「仙台赤十字病院の存続を図る側面もある」

<https://newsdig.tbs.co.jp/articles/tbc/274659?display=1>

2023年1月13日 tbc東北放送



仙台医療圏の4つの病院を再編する宮城県の構想について、市民団体が13日、県に構想撤回を求める署名を提出しました。一方、村井知事はtbcのインタビューに応じ構想には赤字続きの仙台赤十字病院の存続を図るという側面があることを明らかにしました。

県の4病院再編構想は、仙台赤十字病院と県立がんセンターを統合して名取市に。東北労災病院と県立精神医療センターを併設して富谷市に移転するというものです。

13日は7つの市民団体の代表らが県庁を訪れ、構想撤回を求める▼4万8900人分の署名を提出しました。



地域医療を守る共同行動みやぎ連絡会・岩倉政城共同代表：「ここに集まっているのはせいせい10数人だが、その後ろになんと5万人の人たちが座っているということだと理解してもらいたい」

一方、村井知事は13日、tbcのインタビューに応じ、人口減少が進めば病院は過当競争になるとして、再編の意義を強調しました。

「このままやらなければ、ずっとうまくいくかということ、必ずどこかで病院がどんどんなくなっていく。そうならないうちに早めに手を打っていくということ。これが私は知事としての大切な仕事だと」



その上で、県の構想には、赤字続きで経営が厳しい仙台赤十字病院の存続を図るという側面があることを明らかにしました。

村井知事：「仮に県が手を引けば仙台日赤（仙台赤十字病院）が未来永劫、30年も50年も残るかとは私は考えた。そうなった時に、仙台日赤をなくさない方法をどうすればいいのかと思って仙台日赤に声をかけた」

県は、構想について、今年度中の基本合意を目指しています。

反対署名4万8980人分

4病院再編 連絡会、県に提出



4病院再編に反対するデモ行進
=13日、仙台市青葉区一番町4丁目

県が主導する仙台医療圏4病院の再編構想を巡り、県内の医療・福祉など7団体でつくる「地域医療を守る共同行動みやぎ連絡会」は13日、撤回を求める署名簿を県に提出した。昨年4、8月に続く3回目、計8万3143人分となつ

た。構想は、仙台赤十字病院（仙台市太白区）と県立がんセンター（名取市）を統合して名取市に、東北労災病院（青葉区）と県立精神医療センター（名取市）を合築して富谷市にそれぞれ新病院を建設する。県庁を訪れた連絡会の岩

倉政城共同代表は「県立病院を一つずつつぶして民間に丸投げする政策だ」と指摘。「われわれの後ろには5万人が座っている。重く受け止め、当事者の意見を聞きながら県政を動かしてほしい」と求めた。

他の出席者からも県の消極的な情報開示への批判や、精神医療センター移転で精神障害者の地域移行が後退することへの懸念が相次いだ。労災病院の労組関係者は「患者に治療の効果と副作用を説明するのが医療の基本だが、県は聞こえがいい構想の効果しか表に出していない」と訴えた。

署名簿を受け取った伊藤哲也保健福祉部長は「地域医療を今後も維持するため必要な検討と認識している。説明できることはして、最大限、情報提供しながら進めたい」と答えた。

終了後、連絡会は仙台市中心部でデモを実施。約70人がプラカードを手に練り歩いた。

新年度予算案で 県に65項目要望

みやぎ県民の声

県が編成中の新年度当初予算案に関し、県議会の第2会派「みやぎ県民の声」(10人)は12日、新型コロナウイルス流行「第8波」への対策、子育て支援の拡充など8分野65項目を県に要望した。

県が主導する仙台医療圏4病院の再編構想は立地自治体や患者、職員、住民らの意見を聞くよう求めた。特に県立精神医療センターの移転で、精神科医療関係者との十分な協議を訴えた。



3 医療・福祉の充実と4病院の統合・合築について

(みやぎ県民の声Twitterより)

- (1) 4病院の統合・合築については宮城県全体の問題として捉え、できる限りの情報公開と立地自治体・患者・職員・協力医療機関・地域住民の意見を踏まえて進めること。特に精神医療センターの移転については、障がい特性を考慮するとともに、異議を唱えている精神科病院協会や宮城県精神神経科診療所協会などの専門家と十分に協議すること。
- (2) 地域医療体制に必要な医療従事者の確保対策を強力に推進するとともに、東北医科薬科大学における「総合診療医」の育成を強化し、地域医療を担う医師不足の解消に取り組むこと。
- (3) 県民が安心して出産に臨める医療体制の整備に向けて、医療圏ごとの産科医、小児科医の不足や偏在の状況を改善していくとともに、不妊治療産的・産後ケア等に関する情報発信に努めること。
- (4) 高齢化社会を迎えるにあたり、回復期病床・慢性期病床の整備、在宅医療の基盤強化を進めるとともに、医療と介護の連携強化に向けた支援をおこなうこと。
- (5) 産学官が連携したみやぎ版医療DXの推進により、医療現場の業務効率化・オンライン診療の実用化・医療情報ネットワークの構築(MMW I Nの活用)・予防医療サービスの普及等を実現し、県民の医療体制の向上、健康寿命の延伸につなげること。
- (6) 介護従事者の処遇改善、離職者の復職支援、キャリアアップ支援、介護テクノロジー導入による負担軽減の支援など、足りない介護人材を確保するための施策を講じること。
- (7) 誰もが認知症になっても安心して暮らしていける環境・地域づくりのために、認知症当事者も地域を支える一員として活躍できるピアサポート活動、認知症サポーター活動の支援を拡充するとともに、認知症への理解を深める啓発活動に取り組むこと。
- (8) ヤングケアラーが必要な支援を受けられるよう、学校や医療機関、福祉機関、地域でのヤングケアラーの早期発見、相談支援や福祉サービスへの円滑なつながり等、市町村や関係機関との連携・支援体制の強化に取り組むこと。
- (9) 医療的ケア児の支援の充実に向け、医療型短期入所事業所、福祉型短期入所事業所の整備に取り組むとともに、医療的ケア等に対応した人材の育成・確保、医療的ケアコーディネーターの養成研修等に取り組むこと。
- (10) 福祉的就労と就労移行、一般就労(特定子会社含む)の連携を強化するとともに、優先調達の仕組みや「みやぎの福祉的就労施設で働く障害者・官民応援団」事業を活用し、業務発注や商品の販売機会の確保・拡大に取り組むこと。

内科部長は運営法人理事長

白石・刈田病院

白石市の公立刈田総合病院の公設民営化で、今年4月から指定管理者として病院を運営する奈良市の医療法人「仁誠会」の今村豪理事長(48)が16日、内科部長として着任した。救急などに対応しつつ、

院内の状況把握に務める。

今村氏は甲府市生まれで自治医科大卒。総合診療科を専門とし、全国22法人47施設を率いる今村メディカルグループ(IMG)の会長を兼ねる。民間病院などの事業承継・買

きょう現場で診療開始

「院内状況も確認」

収では現場に入って立ち上げに尽力しており、グループ初の公立病院の指定管理となる今回も同じ方針で臨む。

17日から常勤医として現場に立つ。今村氏は「救急や夜間の診療などを担当しつつ、病院全体の運営状況を確認したい」と話す。